

2023年度北海道大学情報基盤センター萌芽型共同研究成果報告書

1. 研究類型 B) 研究集会開催支援型

2. 研究課題名 ポストコロナ時代の言語教育におけるオンライン授業と機械翻訳への対応に関する研究

3. 研究期間 2023年 5月 22日 ～ 2024年 3月 31日

4. 研究代表者

氏 名	所属機関・部局名	職 名	備 考
堀 晋也	北海道大学メディア・コミュニケーション研究院	助教	

5. 研究分担者

氏 名	所属機関・部局名	職 名	備 考
田邊 鉄	北海道大学情報基盤センター	准教授	
杉江 聡子	札幌国際大学人文学部	准教授	
大木 充	京都大学人間・環境学研究所	名誉教授	

6. 共同研究の成果

本研究の目的は、ポストコロナ時代の言語教育におけるオンライン授業のあり方、翻訳 AI・生成 AI への対応について考察することであった。そして、2023年8月29・30日に開催した研究集会では、英語、フランス語、中国語の言語教育の研究者、そして機械翻訳と心理学を専門とする研究者を招聘しての講演会、シンポジウムを実施し、幅広い知見の共有と活発な意見交換を行う機会を得ることができた。

ポストコロナ時代の言語教育におけるオンライン授業のあり方について、田中彰吾氏（東海大学）による招聘講演では、メルロ＝ポンティが提唱した間身体性の概念を用いた、オンラインと対面のコミュニケーションの質的差異に関する研究が紹介された。同調と同期の頻度と場面による違いが見出された研究結果は、これからのオンライン授業の意義を考える上で重要な示唆を含むものであった。そして研究代表者の堀は、フランス語学習者を対象としたアンケート調査の結果をもとに、学習者の基本的心理的欲求の充足とオンライン授業との相性について、授業内容やクラスサイズが影響する可能性を報告した。

翻訳 AI・生成 AI への対応については、山田優氏（立教大学）による招聘講演で、機械翻訳の現在地と英語のライティング学習における ChatGPT の導入事例が紹介され、適切なプロンプトによる生成 AI の柔軟かつ学習者に適した機械翻訳としての活用可能性が示された。

そして第二外国語教育における活用事例として、分担者の杉江は、中国語教育における Project-Based Learning の教授設計を AI の活用によって最適化する取り組みを、分担者の田邊は、学生自身が中国語の学習教材を AI を活用して作成する取り組みを報告した。さらに分担者の大木は、翻訳 AI・生成 AI を積極的に活用する開発中のフランス語の教科書を紹介し、AI が発展途上にあることを逆手に取ったポストエディットのタスクにおける語彙力と文法の知識の重要性を指摘した。

翻訳 AI・生成 AI を導入することは、現在の外国語教育全体を再考することにもつながる。この点に関して、酒井志延氏（千葉商科大学）の招聘講演では、自身の英語教育での実践の紹介を通して、AI の活用が、「知識の習得、練習、実践というプロセスを辿る従来の教育から学生の学ぶ意欲を引き出す教育へ」というパラダイムシフトにつながる可能性が示された。

研究代表者、分担者の研究成果

- ・堀 晋也 (2024). 「ポストコロナ時代の言語教育におけるオンライン授業のあり方—フランス語学習者の心理的欲求に関するアンケート調査を踏まえて—」, 『e-Learning 教育研究』, 18 巻, pp.40-52.
- ・HORI Shinya (印刷中) L'impact des facteurs liés à l'environnement d'apprentissage sur la motivation et les besoins psychologiques fondamentaux des apprenants de français, *Revue japonaise de didactique du français*, Vol 19, 1.
- ・杉江聡子 (2024). 「観光・メディア・外国語教育を統合した PBL の教授設計」, 『複言語・多言語教育研究』, 11, pp.62-77.